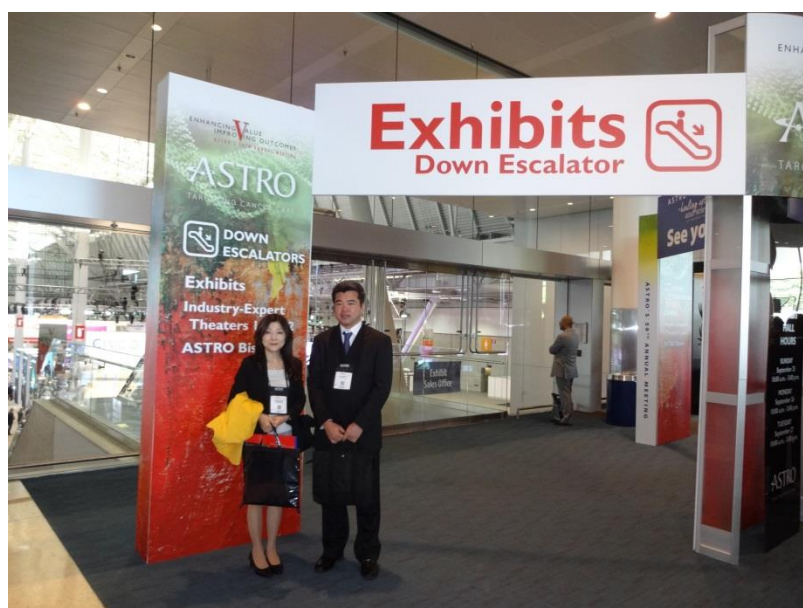


ASTRO 学会報告

放射線治療センター 淡河恵津世

2016年9月25日～28日の期間、USボストンで開催されたASTRO (American Society for Radiation Oncology) に出席いたしました。今回の主たる目的は、2018年10月開設の新施設である放射線腫瘍センターに向けての治療機器ならび周辺機器をみるのが重大ミッションでしたので、学術内容については報告することがありません。しかも、新施設の計画事業の中で急に行くことが決まりましたので、3泊5日の強行スケジュール(2泊4日でなくてよかった)となり、大倉副技師長と終日機器展示会場を歩き回って説明を聞くという経験でした。



ASTROは5年ほど前に江藤先生・宮田先生と共に同じボストンに行き、サンディ・ハリケーンに現地遭遇するという貴重な体験をした場所で、何となく天気が悪くて大変だったという印象でしたが、今回はお天気も良くて強行軍ではありましたが、ボストンの町並みを楽しむことができました。宿泊はHilton Back Bayで、交通の便利もよく、近くにスーパーマーケットやダックツアーの出発地点もあり、ASTRO巡回バスもホテル前に止まるので、ロケーションには恵まれました。

今回のミッションである機器選定のための視察については、到着翌日に機器展示会場に向かい、開始時間から1日中歩き回っていました。最新の実機がそろっており、エレクトラ・バリアン・アキュレイの3社を中心に視察し、周辺機器についてはブレインラボをはじめとする各社の説明を受けました。放射線治療はより高精度化へ向かい、それに伴う固定技術や確認精度の確立がめざましく、旧態依然としている現放射線治療センターからは信じられないような技術もあり、世界は確実に動いていることを実感することができました。しかし、感動ばかりはしていただけないので、久留米大学に導入するにあたっての利点と

不足点についてまとめることができたように思います。これが掲載されるころには機器の契約が進んでいることと思いますが、機種選定会議に向けての準備にはなったと思い、このような機会をお許しいただいた皆様に感謝いたします。



興味深いランチョンセミナーがありました。日本のランチョンセミナーと異なり、会場の後ろに巨大なサンドウィッチとサラダとコーヒー等があり、自分で適当に取って座って聞くわけですが、面白い話題なんだけど、とにかく眠い・・・そのなかで、膵臓癌に対するサイバーナイフ 5 回照射は衝撃的でした。消化管が大丈夫なのか、腫瘍局在部位の至適なものはどうなのか、疑問はわいていますが、その発想が凄くて驚くばかりでした。Trial ではありますが、今後何らかの形で検証されていくのでしょうかね？！

出発前の寝不足と時差ぼけが重なり、午後の視察時には本社長と個室面談しているにもかかわらず、「あのソファで寝たい」という不謹慎なことを妄想して睡魔と戦いながらの

機器展示視察でしたが、各社本当に熱心に説明いただき感謝しています。この経験が、いつの日か楽しい思い出になると信じて、治療に携わる皆の夢に向かっていければと思います、そこに関わる患者さんの希望を考えながら、帰路について大忙しの ASTRO でした。

追記：短い時間の中、ハーバード大学構内へ行って参りました。ユニバーシティホール前にジョン・ハーバードさん（John Harvard 創設者 1638 年）の銅像があり、この銅像の靴をなでると、幸運が訪れると言われているそうです。早い時間だったせいか、天気の影響か、到着したときに周りに人影はなく、もちろん触ってきましたよ(*^_^*)「新棟にいい機器が入りますように」「皆が健康で頑張れますように」「私が病気しませんように」ちょっと欲張りましたかね・・・

